

□ ■ 2024 年および 2025 年の ASEAN 経済状況 ■ □



こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、ナムターンです。

2024 年の ASEAN 全体の経済概況は GDP 成長率が 4.7%、2025 年は 4.8%の成長が予想されています。また ASEAN 加盟国それぞれの GDP 成長率は、平均 4%から 6%の間と、世界的に見て高い水準で推移すると予測されています。これらの国々の経済に影響を与える要因として、輸出、観光業、そして外国からの直接投資（FDI）の増加が挙げられます。

一方で今後の主なりリスク要因として、米中貿易戦争による貿易摩擦が挙げられます。特に、2025 年 1 月に就任した、第 47 代アメリカ大統領ドナルド・トランプ氏の関税政策が注目されます。この政策により、中国のサプライチェーンからの対海外輸出と ASEAN からの対中輸出の減少が予想されます。また、中国国内の供給過剰により、中国から対 ASEAN への輸出が増加する可能性があります。これは中国が過剰

な国内供給を他国に振り分ける必要があるためです。さらに、中国の生産拠点が ASEAN 域内へ移転することに伴う、ASEAN からの対米輸出への直接的な影響も懸念されます。

一方、プラスの影響としては、ASEAN が米国への輸出機会を拡大できる可能性です。これは、米国が中国製品に関税を課すことで、ASEAN 製品が中国製品の代替として機能するためです。この状況は、2018 年の米中貿易摩擦の際に ASEAN が恩恵を受けた貿易ルートの変更や生産拠点の移転と同様のパターンとなることが予想されます。

ドナルド・トランプ大統領政権下は、貿易戦争の激化による政策変更を注視する必要があります。また、外部の金融環境の逼迫に加え、ASEAN 地域の国々における民間部門の信頼性低下や政府の安定性といった国内問題も懸念されます。これらの状況は、投資家による投資の延期や中止を通じて、外国からの直接投資（FDI）の減少をもたらし、ASEAN の成長に間接的な影響を与える可能性があります。

### ASEAN 加盟国各国の動向

- シンガポール



Marina Bay

出典：[visit singapore](http://visit.singapore)

ASEAN 最大の経済規模を誇る国です。シンガポールは世界の主要 1,000 都市の経済評価において第 42 位、アジアで第 3 位にランクインしています（Oxford Economics 調べ）。

シンガポールの GDP は 2024 年第 4 四半期に 4.3%成長し、年間を通じた GDP 成長率は 4%と、アナリストの予測を上回りました。ASEAN の中で最大の外国直接投資（FDI）受け入れ国であり、アメリカ、オランダ、中国、日本、香港からの投資総額は 1,580 億米ドルに達しています。

2023 年の投資は主に金融セクターや外国為替取引に集中しており、シンガポールは世界の金融センターとして重要な役割を果たしています。多国籍企業や E コマース、物流企業のアジア地域本部として重要な役割を担っています。さらに、シンガポールは新しい産業技術分野の研究開発にも投資を行っており、特に医療技術、持続可能性、クリーンエネルギーなどの分野に力を入れています。これらの取り組みは経済の多様化を促進し、外国人投資家にとっての魅力を高めることに貢献しています。

加えて、同国の労働力の約 36%を外国人材が占めており、また各産業に精通した現地の人材も豊富です。これらは様々な開発や協力関係を進める上で重要な要因となっています。現在の成長率に基づく予測では、2025 年にはシンガポールの経済規模は 5,481 億 5,000 万米ドルに達すると見込まれています。外国人投資家が信頼する理由は以下の通りです：

- 経済評価において、ギャラップ社、世界銀行、世界保健機関の共同調査で世界第 30 位、アジア第 1 位にランクされています。
- 国民の幸福度評価でも、同じくギャラップ社、世界銀行、世界保健機関の共同調査で世界第 30 位、アジア第 1 位を獲得しています。
- 政府の効率性評価では、チャンドラー・ガバナンス研究所により世界第 1 位に選ばれています。

これらの権威ある機関からの高評価が、シンガポールの経済的潜在力に対する信頼性をさらに高めることにつながっています。

### ■ インドネシア

ASEAN で最大の国土面積と人口を誇る国です。政府は再生可能エネルギー技術の開発と製造業、特に電気自動車（EV）産業への投資に重点を置いています。東南アジアにおける EV 生産の中心地となることを目指しており、政府は生産者と消費者の双方を支援する政策を実施してい

ます。具体的には、自動車メーカーに対する輸入関税の免除や贅沢品販売税（PPnBM）の15%軽減などの税制優遇措置を提供しています。この政策は中国のEVメーカーであるBYDやGAC Aion、フランスのCitroenなどの注目を集め、これらの企業がインドネシアにEV生産工場を設立しています。



インドネシアの工場で生産される最初のシトロエンモデル

出典：[jakartaglobe](https://www.jakartaglobe.com)

また、2025年1月1日から購入税を3%に引き下げる措置も実施されます。さらに、将来のグリーンエネルギー使用を促進するため、太陽光発電や風力発電への投資・開発も目標に掲げています。

2025年、インドネシア政府は低・中所得者層の購買力低下に対処するため、総額516億5,000万米ドルの経済刺激策を発表しました。この政策は付加価値税の優遇措置を中心とし、食品、教育、医療、運輸、エネルギー、低価格住宅、金融サービスなどの分野で付加価値税が免除されます。一方、和牛や輸入果物などのプレミアム商品、高級医療サービスや高等教育などの贅沢品、サービスには、2025年以降12%の新税率が適用されます。

### ■ マレーシア



マレーシア

出典：[chubbtravelinsurance](https://www.chubbtravelinsurance.com)

2024年12月16日、マレーシアは同国初の国産電気自動車として、ProtonのSUVモデル「e.MAS 7」を発表しました。この車両は中国の自動車大手 Geely からの投資支援を受けており、2025年のASEAN首脳会議での使用も計画されています。この国産EV生産の開始は、低炭素モビリティ時代への移行を加速させる重要な一歩となります。現在、自動車やバス等運輸部門は主要な二酸化炭素排出源となっているため、マレーシアは運輸部門における温室効果ガス排出削減計画を進めています。政府は2027年までに国内自動車産業が27億米ドルまで成長することを期待しています。



電気自動車 SUV「e.MAS」

出典：[headlightmag](https://www.headlightmag.com)

マレーシア統計局の発表によると、2024年第3四半期のGDPは5.3%成長しました。半導体産業、電子機器製造、そしてAIの普及によるデータセンターの急成長を要因とした海外からの投資が、これらの産業分野の成長を促進しています。マレーシアはASEANの製造拠点および半導体設計拠点となることを目指しています。

また、5Gネットワーク、クラウドコンピューティングに対応するデジタルインフラの開発計画、さらに科学技術分野における研究開発の拡大も進めています。主要な輸出品目としては、電気機器、電子部品、石油製品、化学製品が挙げられます。

2025年について、エコノミストらはマレーシアリングgitの対米ドルの強含みを予想しています。為替レートは2024年末の1米ドル=4.40リングgitから、2025年末には1米ドル=4.25リングgitまで上昇すると見込まれています。

- **ベトナム**



ベトナム

[Infoquest](#)

2024年のベトナムのGDPは7.09%成長し、世界で最も高い成長率を記録した20カ国の1つとなりました。海外からの投資は39,377プロジェクトで、総額4,719億200万米ドルに達しています。最大の投資国は韓国で859億5,100万米ドル、次いでシンガポールが761億3,300万米ドル、日本が742億400万米ドルとなっています。

ベトナム政府は2025年を「加速の年」と位置付け、経済成長率約8%を目指としています。ベトナムの経済規模は5,000億米ドルに達し、2026年から2030年の期間には二桁成長（Double-Digit Growth）の達成を目指しています。ASEANへの生産拠点移転の流れから恩恵を受け、特に電機産業を中心に製造業部門への投資と開発が進んでいます。

さらに、中国市場への輸送距離に関して、2025年にはベトナムは経済拡大を支援し、国内市場の成長と第3四半期に7.4%成長を記録した輸出市場を刺激するため、3,000キロメートルの最長高速道路を建設する予定です。生産コストの優位性や各種自由貿易協定に加え、特に電機産業における生産とデジタルインフラの開発は、大手外国企業からの投資を受け、研究開発センターの設立も含めて支援を受けています。

ただし、ベトナム経済は力強さを見せているものの、構造的な問題に関して大きな課題を抱えています。例えば、政府機関の汚職問題、各政府機関の職務の重複、そして必要以上に多い公務員の数が業務効率に影響を与えているといった問題です。また最近では台風ヤーギーの影響による短期的な影響も受けています。しかし、ASEAN諸国の中では依然として最も高い成長潜在力を持つ

ています。さらに、FRBによる最近の利下げにより、ドルは強含みで安定性が増しています。ベトナム中央銀行も、企業と経済を追加資金で支援するため、政策金利引き下げの意向を示しています。

### ■ タイ



BRICS

出典：[bangkokbiznews](http://bangkokbiznews)

タイ国家経済社会開発評議会（NESDC）は、2025年のタイ経済は緩やかな回復基調にあると予測しています。2024年の2.6%の成長に続き、2025年は2.3～3.3%の成長率が見込まれ、中央値は2.8%とされています。

タイ経済の成長には、いくつかの懸念材料が存在しています。家計部門および企業部門の債務水準が依然として高水準にあることに加え、融資基準の厳格化が進んでいます。また、干ばつと洪水の両方の影響を受ける気象条件による農業部門の変動リスクや、主要貿易相手国間の通商政策の影響も懸念されています。

国内投資に関して、2024年の9ヶ月間で投資申請および投資奨励証の発行が増加しています。主な投資分野は、電機・電子機器産業、デジタル産業、自動車・部品産業、農業・食品加工産業となっています。これは2024年の9ヶ月間における外国直接投資（FDI）の流入額2,080億米ドルの増加と一致しています。また、自動車産業、特に電気自動車（EV）システム、再生可能エネルギーへの投資、デジタルインフラの拡大に焦点を当てた政策とも整合しています。

2025年1月1日、タイはBRICSに正式に加盟しました。BRICSは急速な経済発展を遂げている国々の連合体で、輸出機会の拡大、貿易障壁の削減、投資とテクノロジーへのアクセス、物流協力、ビジネス観光（MICE）の促進を目的としています。また、大国間のゼロサムゲームを回避し、より包括的な国際関係の在り方を提示することを目指しています。主要メンバーはブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカで構成されており、世界第2位の経済規模と世界人口の45.5%にあたる36億人の人口を有する、世界的に影響力のある国々のグループとなっています。

### ■ ブルネイ・ダルサラーム



原油は輸出の95%を占め、これは政府の年間歳入の94%に相当します。

出典：[amarintv](https://www.amarintv.com)

シンガポール商業銀エコシステム投資会社（SCB EIC）によると、ブルネイはインドネシア、ベトナム、マレーシアに次ぐ東南アジア第4位の原油生産国です。1日約20万バレルの生産能力を持ち、液化天然ガス（LNG）の生産では世界第4位で、日量120万立方フィートの生産能力を有しています。

国営石油会社（Brunei National Petroleum Company Sedirian BerhadまたはPetroleum BRUNEI）が石油・天然ガスに関する政策立案の主要機関として機能しており、石油・エネルギー輸出による収益を海外投資や合併事業に振り向けることで国の富を築いています。一人当たりの平均所得はシンガポールに次ぐ水準となっています。

ブルネイは ASEAN 加盟国の中でも高い貿易潜在力を持ち、タイ製品の成長機会が大きい市場の一つです。また、国民の購買力も高いことが特徴です。輸出収入の 95%、または GDP の 62%（157 億 8,300 万米ドル相当）が原油、精製油、天然ガスの輸出から得られています。

現在、政府は米や農産物の不足に対応するため、農業部門への投資を促進しています。また、石油・ガス産業やデジタル技術産業の発展など、他の政策も推進しています。しかし、シンガポールに次いで ASEAN 第 2 位の小国であり、人口も少ないという地理的特性から、他の産業の拡大には限界があるのが現状です。

### ■ フィリピン



バゴン・ピリピナス（新しいフィリピン）政策

出典：[フィリピン農業局](#)

GDP の 60%はサービス部門からの収入で、かつ国内の家計支出によるものです。フィリピンは依然として輸出よりも輸入が多い国であり、労働力と国内購買力の面で際立った特徴を持っています。

政府はバゴン・ピリピナス政策の下、外国人投資家の受け入れを促進し、4 カ国（インド、韓国、中国、日本）からの投資家向けに電子ビザ（e-visa）制度を導入し、インフラ整備や国内消費

向けビジネスへの投資を容易にしています。2024年1月から9月までの期間における外国直接投資（FDI）は66億6,000万米ドルに達しています。

投資の増加は主にデジタルサービス部門とインフラ整備に集中しています。道路システムは不十分な状態にありますが、これは多島国という地理的要因によるものです。また、「リング・オブ・ファイア（環太平洋火山帯）」と呼ばれる太平洋沿岸部に位置するため、地震や火山噴火といった自然災害が頻繁に発生します。そのため、インフラ整備はフィリピン経済の成長を支える要因となっています。

また、卸売・小売業、自動車・オートバイの修理、金融・保険業の振興にも力を入れています。化粧品・美容製品分野も成長しており、これは15-64歳の女性消費者層（約3,500万人）によるものです。市場には多くのプレイヤーが存在していますが、依然として高い需要があり、商品の多様性と幅広い価格が求められています。

### ■ カンボジア



シアヌークビル・プロジェクト - カンボジアのカジノリゾートシティ

出典：[mgonline](http://mgonline)

カンボジア経済の飛躍的な成長は、外国資本によるインフラ投資に起因しています。外国資本により観光部門が回復し、繊維製品、電子機器、自動車部品などの輸出が伸びました。は国内の労働市場の活性化にもつながっています。

カンボジアは豊富な天然資源を有し、若年人口が多いため、優れた労働力と消費市場を提供しています。さらに、外国人投資家が現地パートナーなしで100%外資所有の会社を設立できるなど、外国投資に対して好適な政策を実施しています。

2022年の外国投資において、中国からの投資は全投資額の42.01%を占め、第2位のタイの40.92%大きく引き離しています。そのため、中国の経済安定性がカンボジアに直接的な影響を及ぼすことは避けられない状況となっています。カンボジアの経済開発計画は順調に進んでいるように見えますが、実際の経済は非常に脆弱です。その理由として、人口の70%が農業部門に従事しており、製造業も衣類などの低付加価値製品の生産が中心となっていることが挙げられます。

中国経済の低迷による影響も受けており、中国国内の不動産市場で問題が発生したため、不動産投資の流れが停滞しています。その結果、不動産やインフラ整備など、中国資本が大きく関わる分野の開発も同様に停滞しています。

カンボジア経済財務省（Ministry of Economy and Finance）の2023年12月のデータによると、中国への債務は、カンボジアの対外債務総額（約100億米ドル）の41%を占めています。

そのような状況の中、カンボジアは投資家の誘致を図り、農産物の生産と加工における付加価値の創出を推進し、輸出に向けた国際基準への品質向上を目指しています。投資家には利益税の免除、輸出税の免除、最低法人税の免除など、多くの優遇措置を提供しています。

カンボジアは中国、韓国とのFTA（自由貿易協定）やRCEPに加盟しており、これらの協定における関税優遇の対象となる輸出品の大部分が農産物であることから、農産物・加工農産物の海外需要は増加すると予測されています。これは国の経済全体にとって良好な見通しとなる可能性があります。

### ▪ ラオス人民民主共和国



ルアンパバーン県の第 13 特別経済区

出典：[aec10news](http://aec10news)

ラオスは特別経済区の継続的な開発を通じて、特に ASEAN 諸国からの投資誘致を戦略的に進めています。ビエンチャン特別経済区では、国内外の企業からの外国直接投資（FDI）が 6 億 2,200 万米ドルを超えています。ラオスはアクセスの面で際立った特徴を持っており、ラオス・中国鉄道はタイ、ベトナム、カンボジアとの往来を可能にしています。豊富な天然資源とエネルギー資源を有する発展途上国として、注目が集まります。

しかし、ASEAN 地域の需要から恩恵を受けているものの、財政と対外的な安定性は非常に脆弱な状態にあります。インフレ、低い外貨準備高、そして投機的（Speculative）レベルの信用格付けによる借入コストの上昇などの要因が経済の潜在力を引き続き圧迫しています。

- ミャンマー



モゴック（Mogok） ミャンマーの主要輸出品である宝石の産地

出典：[vogue](#)

2021年の軍事クーデター等、情勢不安により経済は弱体化し、西側諸国による制裁措置は海外への輸出を大幅に低下させています。また、インフレ率の上昇、輸送・貿易ルートの停滞による生産要素の不足など、その他の問題も抱えています。さらに、長引く国内問題は通貨価値と投資に直接的な影響を及ぼし、大幅な減少を引き起こしています。

2024-2025年度までの継続中のプロジェクトにおける海外投資総額は748億8,734万6,000米ドルとなっています。ミャンマーへの投資額上位5カ国は、シンガポール、中国、香港、イギリス、タイとなっています。

観光業やその他のビジネスが過去の状況から回復していない中、2025年にミャンマーは新たな課題に直面することになります。特に、経済の回復には国内消費の増加が必要ですが、海外投資は不足しており、輸出にも多くの障壁が存在しています。エネルギー、鉱物、宝石などの主要輸出品は、引き続き国の経済を支える主要な輸出品目となります。

ASEAN 加盟国の GDP 数値一覧表

国	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年 (予測)
ASEAN	5.6	4.1	4.7	4.8
ブルネイ・ダルサラーム	-1.6	1.4	2.9	2.5
カンボジア	4.8	5.3	6.0	6.1
インドネシア	5.3	5.0	5.0	5.1
ラオス	4.4	3.7	4.0	4.0
マレーシア	8.7	3.7	4.4	4.4
ミャンマー	2.8	2.8	1.5	2.0
フィリピン	7.6	5.6	6.2	6.2
シンガポール	3.6	1.1	4.0	2.3
タイ	2.6	1.9	2.7	2.9
ベトナム	8.0	5.1	5.8	6.5

出典：[Asian Development Bank \(2024\)](#)

■ **地域全体のまとめ**

ASEAN は依然として活力があり、柔軟性のある地域であり、世界の貿易と投資における重要な中心的位置を占めています。

ベトナム、フィリピン、インドネシアなどの新興市場は、産業の拡大とテクノロジー部門に牽引され、地域のリーダーとなりうる可能性を秘めています。一部の国では政治の不安定さ、他、環境の持続可能性、世界経済の動向による不確実性といった課題は依然として存在していますが、2025 年に向けて、この地域は統合を重視し、継続的な発展を目指しています。

今年には ASEAN 共同体にとってもう一つの重要な年となります。ASEAN Vision 2045 の開始を宣言するだけでなく、東南アジア 10 カ国の 7 億人以上の人々のための共同体の今後 20 年の方向性を定めます。マレーシアは 2025 年 5 月 5 日から 7 日まで、ASEAN サミットおよび関連会議の公式ホスト国を務めます。マレーシアのホスト国としての ASEAN 共同体推進の主要テーマは「Inclusivity and Sustainability（包摂性と持続可能性）」です。

□ ■タイ企業インタビュー ■ □

KOMILO CO., LTD.



KOMILO の牛の耳タグ

■ KOMILO 会社概要

KOMILO は、IoT の専門知識を持つ、大学の同じ研究室に所属していた教授、学生、研究者が集まって設立されました。酪農家との現場での出会いを通じて、農業分野における重要な課題を発見しました。それは、酪農家が乳牛の人工授精に最適なタイミングを特定できないという問題です。

牧場を運営する上で、子牛の出産率を上げ、牛乳の生産量を増やすためには人工授精が必要不可欠です。適切なタイミングで人工授精ができない場合、乳牛の繁殖、乳量、そして乳質にも悪影響を及ぼし、発情期 1 回 1 頭あたり約 7,800 バーツもの損失が発生します。

これまで農家は、乳牛の発情兆候を目で観察し、交配の準備ができているかどうかを判断してきました。しかし、研究チームの現地調査の結果、この観察方法では誤差率が 60%と高く、これが乳量と乳質に直接的な影響を与えていることがわかりました。

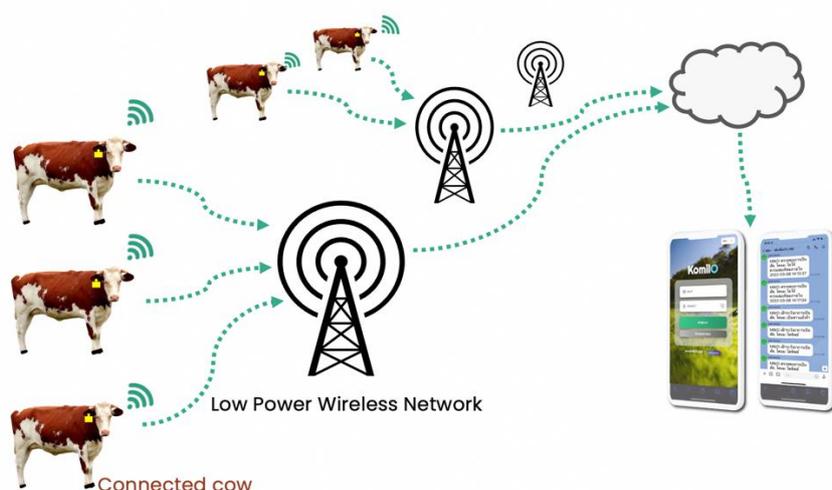
また、酪農業は故プミボン国王（ラーマ 9 世）が注力をした産業分野です。プミボン王は在来種と外国種の品種改良を通じて、環境に強く、乳量の多い乳牛の開発を推進し、タイにおける酪農業の発展に尽力されました。これは農家の収入増加と国民の牛乳消費促進を目的としたものでした。

しかし、現在、小規模農家は生産性向上のための技術へのアクセスが限られており、国内の酪農家の減少と高齢化が大きな問題となっています。また、十分な生計を立てるほどの乳量が確保できず、収入が少ないことから、若い世代は労働強度が高く収入の少ない酪農業を避け、他の職業を選択する傾向にあります。

そこで弊社は、持続可能な酪農業の実現を支援するため、乳牛の行動を監視し、人工授精の最適なタイミングを特定する技術の開発に取り組んでいます。この技術は、国内のリソースを活用して開発・製造しており、高齢の農家でも扱いやすく、価格面でもアクセスしやすいシステムを目指しています。

ビジネスの観点から見ると、これは非常に大きな市場と言えます。タイ国内の乳牛の頭数は 30 万頭にのぼり、その 70%以上が小規模農家によって飼育されています。これらの小規模農家は、生産性向上のために、知識とテクノロジーの支援と発展を必要としています。

弊社は将来的に、農家の生産性をさらに向上させるための新たな技術開発も計画しています。



KOMILO の技術の仕組み

### ■ 製品開発のための資金調達について

大学発の研究チームである KOMILO は、国家研究評議会（NRCT）を通じて、社会貢献型研究を支援する政府機関の助成金を申請しました。この助成金の目標は、研究室段階に留まらず、市場で取引可能な段階まで技術開発することであり、これは弊社の意図と完全に一致していました。

現在、初期助成金を活用して、様々な地域の乳牛からデータを収集するための機器とシステムを開発しています。初期試験では、発情期の検出精度を 90%まで向上させることに成功しました。

また、投資家や弊社の取り組みに関心のある組織・団体から開発資金を調達するため、各種展示会でも技術発表を行っています。このようなクラウドファンディング形式で得られた追加資金により、より効率的に事業を進めることが可能となっています。

### ■ タイの農業産業、牧畜業の概要、および Deep Tech<sup>1</sup>の活用状況について

タイの酪農家は約 20,000 戸の小規模農家が大半を占めており、その多くが、受けられる教育水準が低いため、生産性向上の技術導入は諸刃の剣となる可能性があります。適切に使用すれば生産効率を向上させることができますが、誤った使用は逆に生産性の低下を招く可能性があるためです。

そのため、KOMILO には農家への教育という、システムの開発とは別の課題もあります。人工授精に適した行動状態を検知する機器の使用によって、どれだけ乳量を増やせるかを、データと試験結果を用いて農家に示し、信頼を築く必要があります。

伝統的な農法を続ける小規模農家が多いタイの農業セクターにおいて、これは大きな課題です。しかし、この分野はビジネスとして高い可能性を持つ市場であり、弊社の技術を試してみようという意欲も見られます。価格の壁は大きな課題ですが、生産コストを下げることで小規模農家でも導入できるよう努めています。

大規模牧場では既に類似の行動検知技術を導入していますが、それらは高価な輸入技術です。大規模牧場では投資資金の問題は少ないものの、弊社は価格と精度の面で輸入技術との差別化を図っています。

- ※ 1 ディープテックとは科学的な発見や革新的な技術を活用して大きな問題を解決する取り組みです。この新しい概念は、従来のテクノロジーを進化させるだけでなく、社会の根本的な課題に対して革新的な解決策を提供することを目指します。



### ■ 生体実験に関する法的許可手続きについて

KOMILO は大学のスピンオフ企業として研究・設立されています。そのため、動物実験の倫理審査申請は大学の関連部署を通じて行っています。監督官庁への申請手続きは大学のサポートを受けています。弊社の技術は動物の外部からの行動観察に基づくものですが、法律に従って必要な許可を取得する必要があります。また、商業利用の際には、データ送信機器の使用許可も必要となります。

### ■ タイの畜産・酪農業界における課題と機会について

技術面での課題としては、牛に装着するセンサーの小型化です。現在のサイズでは牛に不快感、ストレスを与える可能性があります。また、農家の利便性を考慮し、バッテリー寿命の延長も必要です。

さらに、農家との密接な関わりの中で、牛の怪我の検知など、他の技術ニーズがあることもわかっています。乳牛の怪我も乳量に影響を与えるため、重要な課題です。

長期的な持続可能性の観点から、弊社は農家、獣医、生乳集荷センター、農業協同組合など、業界全体の利益を考慮しています。KOMILO の技術が広く普及すれば、酪農業に関わる関係者へのさらなる利益還元システムの導入も可能になります。現在の技術は、発情時期の検知と農家への通知機能に限定されていますが、将来的にはさらなる機能拡張を計画しています。

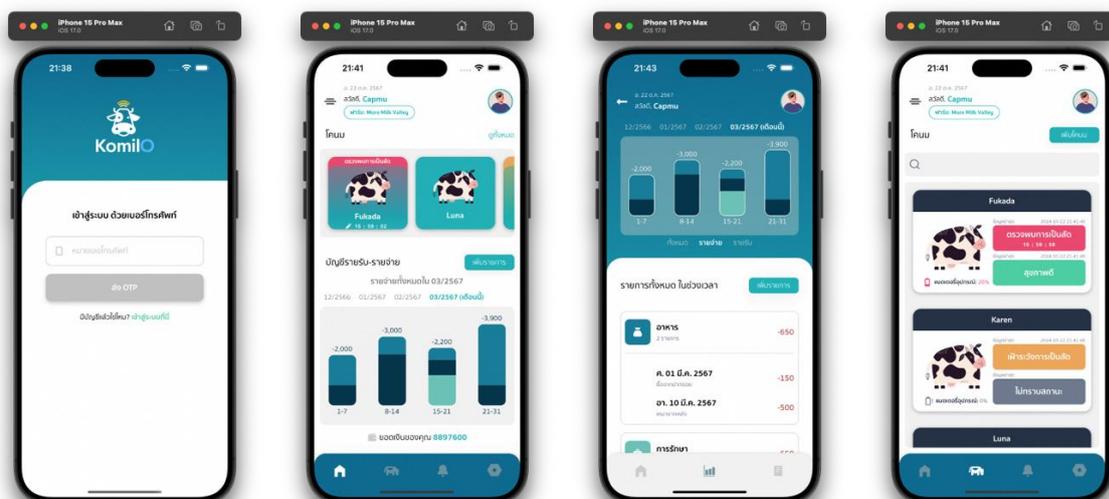
大規模農場（全体の約 30% で多数の乳牛を保有）に関しては、既に高価な海外製の繁殖適期検知技術を導入しています。この市場では、より高い検知精度とコスト削減効果を示すことで、KOMILO の技術の優位性を訴求していく必要があります。

### ■ 現在のサービス提供形態と顧客について

現在、弊社は農家との実験段階にあります。2025 年半ばまでに、正式なサービス提供を開始する予定です。このサービスは 2 つの形態で提供される予定です

1. サブスクリプション型：月額料金制で、牛に取り付ける機器の提供とアプリケーションの使用が含まれます。農家や関係者へアプリ、SMS、LINE 経由での通知機能も備えています。
2. 売り切り型：システム全体と機器を含む売り切り型で、これは多数の牛を飼育する大規模農場向けに適しています。

どちらの形態を選択するかは、農家のニーズに応じて決定できます。



KOMOLO のアプリのダッシュボード画面

### ■ KOMILO のサービスにおける強み

実地での開発とテストを行っているため、データ収集の精度は実際の環境条件に基づいています。牛の品種、個性、タイの気候、飼料、その他の国内の基本的な環境要因など、牛の行動に影響を与えるすべての要素を考慮しています。そのため、他国で製造された技術と比較して、よりタイの酪農事情に沿った高い精度を実現しています。

また、現在の導入判断の主な要因である価格面においても、海外からの輸入技術と比較して大きな優位性があります。さらに、アプリケーションは使いやすく設計されており、農家の直接的なニーズを理解した上で開発されているため、タイの農家に適した製品となっています。

### ■ 海外企業との事業連携に関する展望

弊社は、タイで飼育されている乳牛に適した技術開発のためのデータ収集を重視しています。そのため、タイ国内での展開に加えて、まずはベトナム、インドネシア、カンボジアなど、気候、地理条件、牛の飼育方法が類似している近隣国への展開を計画しています。

一方、日本のように環境が大きく異なる国については、まずは共同実験から始めることを検討しています。製品化の前に、その地域での牛の行動パターンを十分に理解し、データ処理に反映させることが重要だと考えているためです。

### ■ 事業提携におけるパートナー企業のメリット

弊社の技術を導入・活用いただくことで、生産者から消費者まで、バリューチェーン全体にわたる利益創出が可能となります。国内消費および輸出向けに、十分な価値と品質を持つ生乳の生産が実現できます。

詳細な研究により、弊社の技術が農業生産性の向上に大きく貢献することが実証されています。さらに、タイの農業セクターの持続可能な生産性向上を支援するための新たな技術開発も計画しています。

このように、弊社との提携は、酪農業界全体の発展に寄与する機会となります。

### ■ 特に日本企業向けの会社 PR

弊社は、タイの農家の持続可能な発展と市場競争力の強化を目指すテクノロジー企業です。世界中の人々にとって重要な経済部門である農業分野において、真摯な研究開発を行っています。

乳牛や肉牛の品種改良、さらには他国への展開も視野に入れており、特に乳製品と食肉の消費量が多い日本との協力を大きな期待を寄せています。共同研究や事業連携を通じて、農業分野全体の発展に貢献できると考えています。

我々の技術と知見を活かし、日本企業との連携をすることで、両国の酪農業界により大きな価値を提供できることを確信しています。

### 【企業概要】

会社名：KOMILO CO., LTD.

資本金：100 万バーツ（約 450 万円 ※2025 年 2 月のレート）

設立日：2023 年 8 月 29 日

住所：88/108 Grande Pleno Village, Suksawat-Rama 3, Pracha Uthit 54 Soi 17,  
Thung Khru Sub-district, Thung Khru District, Bangkok

### インタビュー相手

Treetep Saegnow, Ph.D: CEO

Ann Silapunt, Ph.D: CTO、創業者

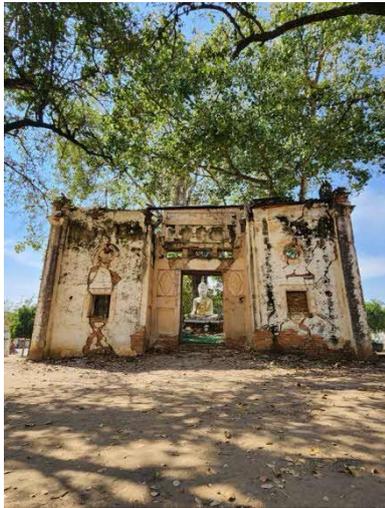
Salinee Choowitsakunlert, Ph.D: COO 兼 CFO

Orrathai Watcharakitchakorn, Ph.D: 事業開発担当

Ploybussara Gomasang, Ph.D: セールス・マーケティング担当

Patimapon Soynoi: 技術サポート

□ ■ スパンブリー県の歴史と文化を巡る旅 ■ □



こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、バンブーです。

今回ご紹介するのは、タイの中央部に位置するスパンブリー県 (Suphan Buri Prefecture) です。この街は、歴史や豊かな文化、美しい自然に恵まれた地域です。

スパンブリーはバンコクから車で2時間ほどの距離にあり、タイとビルマの戦いが繰り広げられた重要な場所として知られています。現在もなおその歴史的な魅力を残したこのエリアは、タイの伝統芸術や田舎の生活を学びたい人々にとって、理想的な旅行

先となっています。

今回は、このスパンブリー県の観光地を巡り、この街の歴史と背景をご紹介します。歴史に興味がある方、地元の文化を深く知りたい方はきっと楽しんでいただけたと思います。



**プラヤ・チャルムアカーツ航空博物館**

最初に訪れる場所は、プラヤ・チャルムアカーツ航空博物館です。博物館の敷地に入ると、最初に目に飛び込んでくるのは、タイ初のパイロットであり、タイ空軍の創設者であるプラヤ・チャルムアカーツの銅像です。この銅像は博物館の入り口前に堂々と立ち、タイの航空史における同氏の勇気と献身を象徴しています。

この博物館は、プラヤ・チャルムアカーツ氏の旧邸宅を再利用しており、元々はタイの伝統的な家屋でしたが、現在は博物館として修復され、一般に公開されています。現在、この博物館の管理は、彼の孫娘であるプラヤ・チャルムアカーツ空軍少将により行われています。



2階建のうち1階はプラヤ・チャルムアカート氏の生涯をたどる展示がされており、彼の少年時代から、タイ空軍の重要人物となるまでの道のりが紹介されています。

プラヤ・チャルムアカート氏は、1887年にspanブリー県で生まれ、フランスで航空の教育を受けた後、タイ初の戦闘機パイロットとして、タイ空軍の初代航空団

長を務めました。また、1917年にはタイ軍のボランティア部隊1,250名を率いて、フランスで第一次世界大戦に参加しました。

展示室では、第一次世界大戦に参加したタイ兵士たちの貴重な映像が上映されており、その当時の雰囲気を感じることができます。また、プラヤ・チャルムアカート氏が任務を遂行している映像も見ることができます。

2階に上がると、彼の生活用品が展示されています。机、タイライター、冷蔵庫、紅茶セットなどが展示され、当時の生活様式を感じることができます。これらの品々は非常に丁寧に保存されており、訪れる人々が彼の功績を思い起こすための貴重な資料となっています。

プラヤ・チャルムアカート航空博物館を訪れることは、タイの初代パイロットの歴史を学ぶだけでなく、タイ空軍の基礎を築いた人物の決意と献身を感じる素晴らしい機会でもあります。

### プラ・ループ寺博物館

次に訪れるのは、プラ・ループ寺博物館です。この博物館はプラ・ループ寺の中にあり、古い貴重な品や美術品が多く保管されています。次の世代の人々にタイの歴史を学んでもらいたいと考えの元、プラ・クルー・ストーン・スワンナキット僧と、地元コミュニティの協力によって1990年に設立されました。

その後、2018年には、プラ・クルー・サンガ・ラックス・ウッティパン・シリト院長、寺院の委員会、地域コミュニティ、spanブリー市の考古



学ネットワーク、そしてタマサート大学の研究者たちの支援を受けて、リニューアルオープンしました。



博物館内には、プラ・ループ寺の栄光を反映した貴重な考古学的および芸術的な展示物が数多く並んでいます。展示品には、仏足木像、宗教的な芸術品、焼き物の仏印、さまざまな時代の仏像、また仏教に関連する古文書やラオスの貝多羅葉（ヤシ科の植物であるタマリンドの樹の葉を乾燥させ経典や文献を書き写し保存したもの）などが含まれています。

この博物館は、タイの歴史、芸術、文化に興味がある方にとって重要な学びの場となっています。訪れることで、スパンブリー県の文化遺産をさらに深く学び、貴重な歴史的遺物を通して過去の物語に触れることができる貴重な機会を提供しています。

### チャオプラヤー・ヤムラーチ病院

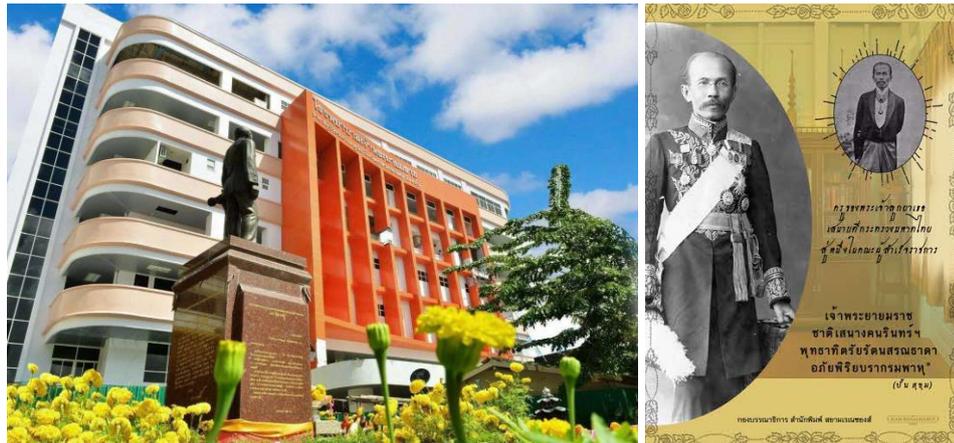


Photo Cr.: <https://www.facebook.com/SiamRenaissancePublishing>

病院が観光地、というのは考えづらいかもしれませんが、チャオプラヤー・ヤムラーチ氏の話を聞くと、この場所に何があるのか、と興味が湧くことは間違いありません。チャオプラヤー・ヤムラーチは、スパンブリー出身で、数々の重要な業績を残した人物です。特に、ラーマ5世の4人の王子を教え、ダムヌンサドゥアク宮殿の建設を監督し、ラーマ8世の6人の摂政のうちの1人としても活躍しました。

病院に到着すると、最初に目を引くのは「黄色い建物」です。建物は修復されていますが、元の色を保っています。建物の上階にはチャオプラヤー・ヤムラーチ博物館があり、彼の生涯の物語が展示されています。

博物館では、チャオプラヤー・ヤムラーチ（パン・スクム）の伝記が紹介されています。彼は1862年にスパンブリーで生まれ、タイ国内で基礎教育を受けた後、イギリスに留学し西洋の教育を受けました。帰国後、教育分野に関心を持ち、教師としてのキャリアをスタートさせました。

当初は政府の教育機関で教鞭をとり、近代的な教育制度の導入に貢献しました。その後、王室の信頼を得て、王子（後のラーマ6世）を教える役目を担うこととなったその後、ナコーンシー・タマラートの地方行政官として任命され、道路や運河などのインフラの開発に重要な役割を果たしました。

1906年には建設大臣に任命され、ダムヌンサドゥアク宮殿やアナンタサモコム宮殿、さらには水道システムなどの重要な建設プロジェクトを担当しました。その後、ラーマ6世によって「チャオプラヤー・ヤムラーチ」の称号を授かり、ラーマ7世の代まで政府で働き続けました。

退職後も重要な役割を果たし、ラーマ8世の代行委員の一員に任命されました。彼は1938年に亡くなり、43年間の公務を経て「マハアムアット・ナーヨーク」の称号を授かりました。これは民間人が受けることができる最高の職位です。

展示室には、彼の使用した物品や当時の写真、重要な文書などが展示されており、タイのインフラ整備がされる以前の様子を垣間見ることができます。

博物館がある上階の他に、建物の下階にはタイ伝統医学と代替医療を受けられるサービスセンターがあります。伝統的な医療に興味がある方は、サービスを利用することができます。

観光地としてはあまり名前が上がることはありませんが、タイの発展の歴史に関心のある方にとって、チャオプラヤーヤムラーチ病院は訪れる価値のある場所だと思います。

### ジンカックハウス：ラーマ 5 世のお出かけの博物館

spanbreeの旅行を締めくくるために、spanbree県のソンピーニョン郡にある「ジンカックハウス」へ訪れました。かつてこのエリアは、チャクリー王朝の第 5 代のシャム国王（ラーマ 5 世）がspanbreeを初めて訪れた際に上陸した場所として知られており、今後「ラーマ 5 世のお出かけ博物館」として開館予定です。ラーマ 5 世がspanbree県を初めて訪問された際のご活動について調査が行われ、その内容が博物館で展示されています。

ジンカックハウスは、この地域の初期の中国人コミュニティのリーダーだったジンカック氏の家を改装して博物館としてオープンします。お寺の中に展示スペースが設けられました。



ジンカックハウスの壁には、ラーマ 5 世が訪れた際の絵画が描かれており、家の中には中央に広いホールがあります。さらに、家の中には仏壇があり、ポンテーグゴンとティーチューエという中国の神様を祀る祭壇が置かれています。また、ラーマ 5 世から賜った品々が展示されているスペースもあります。現在、家の一部はまだ改装中ですが、完成後はバンリー市場の地元歴史を学べる貴重な場所となるでしょう。

### 【最後に】

スパンブリー県を訪れることで、歴史と文化に触れる素晴らしい体験ができました。プラヤ・チャルムアカーツ航空博物館ではタイの初代パイロットの歴史を学び、プラ・ループ寺博物館ではタイの宗教や芸術を深く理解しました。さらに、チャオプラヤーヤムラーチ病院やジンカックハウスなど、歴史的な背景を持つ場所も見どころです。タイの歴史や文化に興味がある方には、ぜひ訪れてほしい場所ばかりです。スパンブリーでの歴史的な旅を楽しんでください！



※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください

担当：柴田 隼介 Shunsuke Shibata

Address: 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,

Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

▶ タイ経済指標

項目	単位	2022	2023	2024	2025
GDP 成長率	前年比ベ (%)	2.7	1.9	2.3	2.3 (24年9月)
人口*	千人	69,922	70,104	70,245	70,257 (24年11月)
労働者の数*	千人	40,143	40,674	40,765	40,76 (24年)
失業率**	%	1.32	0.98	1.00	1.00 (24年)
最低賃金* バンコク	パーツ/日	353	353	363	372
チョンブリー		354	354	361	400
アユタヤー		343	343	350	357
ラヨン		354	354	361	400
賃金：全国製造業の平均	パーツ	14,305	14,416	14,394	14,394 (24年)
インフレ率**	前年比ベ (%)	6.08	1.23	0.06	0.06 (24年1月)
中央銀行政策金利*	%	1.25	2.50	2.25	2.25 (24年)
普通貯金率**	%	0.28	0.40	0.39	0.28 (1月)
ローン金利 (MLR) **	%	5.50	6.83	7.14	7.03 (1月)
SET 指数*	1975年 : 100	1,668.66	1,415.85	1,400.21	1,314.50 (1月)
パーツ/100円**	パーツ	26.78	24.82	23.33	21.89 (1月)
パーツ/米ドル**	パーツ	35.06	34.80	35.29	34.26 (1月)
円/米ドル**	円	131.38	144.07	153.72	156.49 (1月)
車販売台数 (1月からの累計)	台数	856,057	702,921	559,255	559,255 (24年)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,554	2,383	2,953	2,953 (24年)
BOI 認可プロジェクト金額	10億パーツ	618.62	750.12	973.14	973.14 (24年)

\*期末、\*\*平均